



令和4年度第2回瀬谷区地域福祉保健計画全域計画推進懇談会を開催しました。

「地域でつながりを持っていない人の見守り・関係づくり」をテーマに、「子ども」「高齢者」「障害者」のグループに分かれ意見交換を行い、「現状と課題」「見守り、関係づくりのために必要なこと、出来そうなこと」を話し合いましたので、内容の一部をご紹介します。

## テーマ:「地域でつながりを持っていない人の見守り・関係づくり」

参加者:学識経験者、地域の各団体、医療関係、学校関係、行政等(16名)

### 「子ども」

- 子どもの成長の過程で緩く関わりながら親子ともに長く見守って行けるのが地域の強み。また区外からの転入者も多く、孤立している人を見逃さないことが大切。
- 孤立や不登校、引きこもりの理由は様々であり、地域には多種多様な場があることで支援の幅が広がる。ケアプラザ等で学校以外の居場所づくりを進めていることはよい。
- 課題に気づく人材を増やしていくことや支援者が地域資源をよく知っておくことが重要。
- イベント等に誘っても参加しない親子には家庭への訪問で状況がわかることがあるが、訪問自体が難しい状況である。「赤ちゃん訪問」「子育て支援ヘルパー」等、直接かかわる活動を通して見えにくい課題に気づく感度を上げ、支援を強めていけるとよい。
- 子どもに関わる団体や機関と医療関係者との連携が必要。最も大切なことは命を守ることで、医療の専門的視点が必要。学校や主任児童委員等、医師との繋がりルートがあるとよい。

### 「高齢者」

- 新型コロナウイルスの影響で、高齢者施設は社会との関わりが薄れてしまったが、場づくりなど貢献できることは引き続き行いたい。
- 認知症サポーター養成講座は、地域の方々で多様な意見交換が行え、見守り強化につながるため継続したい。
- 高齢者施設や薬局には専門職が多くいるので、講座等、地域の活動で活用してほしい。講座から福祉保健に関心が向き、顔なじみの会話の中から相談事など引き出すことにつながる。買い物の付き添い等ちょっとした困りごとの支援は近所づきあいで進めていけるとよい。
- 薬局自体がコミュニティの場として機能したり、普段つながりのない人が利用する店舗(スーパー等)の場所を活かし、関係づくりをしたい。
- 地域によっては公園を活用した見守りの取組を行っているので、公園を集いの場として有効活用できるとよい。区のスポーツ推進委員にも共有したい。

### 「障害者」

- つながりを必要としない人や、つながりの良さを知らない人もいる。
- 地域の中でほとんど会えず、ふれあいの機会がない。日ごろ接点がないと災害時に対応することは難しいので、防災を切り口に顔の見える関係づくりを推進していきたい。
- 個人が地域とつながるのは難しいので、まずは事業者が地域とのつながりをつくっていききたい。事業所から個人へ地域行事のPRすると参加につながると思う。事業所としても旗振り役としてやっていきたい。
- どうやって声かけをすれば良いか、地域も悩んでいる。イベントの企画から一緒に参加することでお互いの理解が進むと考える。特別扱いでなく、自然に交流を持つことにつながる。
- 2027年の国際園芸博覧会までの期間を障害者などの理解促進を図る大切な期間ととらえ、取り組んでいきたい。

### まとめ

瀬谷区では、地域でつながりを持っていない人に対して、地域のイベントの参加を促したり、配食活動、訪問活動、回覧板等を通じた安否確認をしています。支援する側・される側が固定されない、ゆるやかな関係づくりを進めていけるとよいということが共有されました。また、各々の立場でできることを行っていくと同時に、地域の関係機関、支援者が役割を超えて連携する必要性も話されました。

区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザの三者の取組と併せ、地域での日ごろの声かけや各団体の様々なイベント等を通じて、各々の役割や立場で話し合い、見守りに関する取組を進めていくことが重要であると確認されました。今後、第4期計画の振り返りに向け、懇談会の中で取組の成果を共有していきたいと考えます。

### 次回の予定

7月6日(木)午後  
 @瀬谷区役所5階大会議室  
 ※テーマを「子ども」に焦点を当てて  
 意見交換を行う予定です。